

## 学生からみたオンライン授業のメリットとデメリット —オンライン環境下のアクティブラーニングに焦点を当てて—

岡田 佳子

長崎大学 生涯教育センター

### Advantages and disadvantages of Online classes for students - Focusing on active learning in online environment -

Yoshiko OKADA

Center for Continuing and lifelong Education, Nagasaki University

#### Abstract

This study aims to explore what students think about the advantages and disadvantages of online classes and those of face-to-face classes. We performed a free description-based questionnaire investigation targeting our students and elucidated the following four points: 1) Students think that the best point about online classes is freedom from time and location constraints. They can use their time freely until just before online classes. Consequently, it was observed that their attendance rate became higher, compared to the case of face-to-face classes. These are, however, inextricably linked to one of the disadvantages. They attend online classes at home mainly, and thus they think they tend to easily get distracted, lose motivation and get lazy. 2) Students think that it is difficult to have a discussion in online classes. There are a lot of students who have experienced difficulty in online communication with each other because of the difficulty in interpreting facial expressions. Online discussions actually tend not to be active. 3) Students think that one of the advantages of face-to-face classes is the ease of discussion. In face-to-face classes, they can communicate with each other with their five senses in the classroom in which they can concentrate. This leads to active discussions and the formation of cooperative relationships and personal connections with others, the point of which students consider as a big advantage. 4) Students consider the improvement of digital environment and online interactivity as challenges in the current online classes.

Key Words : online class, active learning, qualitative analysis , class evaluation

#### 1. はじめに

本稿は、コロナ禍での大学におけるオンライン授業と対面授業のメリット及びデメリットを学生がどのように捉えているのかについてアンケート調査から把握、分析することによって、今後の大学教育におけるオンライン授業の展開や可能性に向けて何らかの示唆を得ることを目指すものである。

2020 年、世界中に広まったコロナ禍の影響で、日本における大学教育はオンライン化を強制的に推進せざるを得ない状況に追いやられた。長崎大学においては、2020 年 3 月 10 日にオンライン授業の実施に向け、長崎大学の教育支援システムである LACS (Learning Assessment & Communication System : 主体的学習促進支援システム) を用いた教育内容を 1 か月分作成しておく旨の通知<sup>1)</sup>が教

員に出され、3月19日の通知にて授業を4月8日から開始し、講義・演習形式の授業は全てオンライン授業で実施することが決定された<sup>2)</sup>。

その後、4月16日の通知で授業方法として「リアルタイム型」(ZOOM、Webex、Blackboard Collaborate等の映像配信システムを用いて授業時間通りに実施する授業)、「オンデマンド型」(動画教材を作成し、mp4形式でアップロードして実施する授業)、「資料提示型」(教員が作成したPowerPointやWord形式等のファイルもしくは板書を撮影した画像をLACS等にアップロードして実施する授業)の三つの方法から選択することが教員に通知された<sup>3)</sup>。

これらの通知では基本的に、第1クォーター、第2クォーターにおける講義・演習科目は一部を除きオンライン授業で実施することが決定された。その後、何度かの変更を経て8月5日に出された通知では、第3、第4クォーターの授業実施は三密を避けるよう、教室の収容人数の50%以下や人との間隔を1m以上空けることなど一定の条件を満たせば対面授業が可能となった<sup>4)</sup>。

長崎大学では以降も繰り返し授業の実施方針を見直し、オンライン授業と対面授業を可能な範囲で取り入れる形で授業が展開されていった。

このように、コロナ禍においては各大学がオンライン授業への対応や工夫をせざるを得なかったのであるが、これは一方で、オンライン授業を取り入れることにより、大学における教育方法の新たな可能性を大きく切り開いた一年として見ることができるだろう。

こうした状況を踏まえ、筆者は、担当している教養科目教育の受講生を対象として、今年度実施されたオンライン授業と対面授業のメリット及びデメリットに対する学生の意見を聴取することを目的としたアンケート調査を実施した。以下ではこの調査内容と分析結果について述べていく。

## 2. 調査の概要

本調査は、2020年度第4クォーターに筆者が担当する教養教育の全学モジュール科目「対人関係を考える」の受講生38名を対象とし、自由記述によるアンケート形式で実施された。回答者の基本

情報は次の通りである。

【学年】2年生 94.7%、3年生 5.3%

【所属学部】経済学部 44.7%、教育学部 23.7%、多文化社会学部 18.4%、水産学部 13.2%

今回、本科目を対象として選んだのは主に学部2年生が受講する科目であったためである。2019年度に通常の対面授業を経験した2年生がコロナ禍でオンライン授業が増えた2020年の状況をどのように捉えているのかを把握したかった。

質問項目としては、(1)オンライン授業と対面授業のメリットとデメリット、(2)オンライン授業と対面授業におけるアクティブラーニングのメリットとデメリット、(3)授業の定着度はオンライン授業と対面授業のどちらが高いと思うか、(4)オンライン授業の課題、の4つを設定し、全問、自由記述方式で質問をした。アンケート調査は授業の最終回時に教育支援システムのLACSを介してオンラインで一斉実施した。

ちなみに、対象科目とした教養教育の全学モジュール科目「対人関係を考える」は対面授業形式とオンライン授業形式の両方で実施した。授業を開始した2020年11月の段階では、対面教育も可能となっていたが、12月に入ると長崎大学は2021年1月以降の授業をすべてオンライン授業で行うことを再決定した<sup>5)</sup>。そのため、対象科目では、2020年内に対面授業を3回(90分授業×6時限分<sup>1)</sup>)行い、その後はZOOMを用いたリアルタイムでのオンライン授業を実施した。

ここで、対象科目の概要を説明する。授業方法としては、次のようなプロセスでアクティブラーニングが成立するよう構成した。

- (1) その回のテーマに関する講義内容の解説
- (2) 講義内容に関連する問題についての個人ワーク
- (3) 学部及び性別混成で作られた4~5人1組のグループワーク
- (4) クラス全体での内容シェアリング

この(1)~(4)を2時限の中で複数回繰り返し、講義内容の理解と相互対話、議論を徐々に深める

形で授業を構成した。

今回、本調査を実施した動機の一つとして、ZOOM等のオンライン環境下におけるアクティブラーニングは、対面授業の場合と比べてどの程度機能しているのか、また、学生の立場からはオンラインでのアクティブラーニングをどのように捉えているのかを幾分かでも把握したいという点があった。

対象科目の受講生は、先述したような内容構成で本科目を経験しているためか、アクティブラーニングに関する質問項目の記述についてはグループワークについてのものが大半であった。また、対象科目の受講生は大半が社会科学系の学部に所属しており、自然科学系の受講生は水産学部の学生が約5%いるのみである。これらは本調査の限界である。

次に、学生の自由記述に対する内容の分析結果を項目ごとに述べる。

### 3. オンライン授業及び対面授業のメリットとデメリット

#### 3.1 オンライン授業のメリット

オンライン授業のメリットとして学生から出た意見の上位項目は、「移動しなくても授業が受けられること」(回答率68.4%、以下同様)、「自分の好きな時間、ペースで授業を受講できること」(21.1%)、「リラックスした状態で授業が受けられる」(13.2%)「教員に質問しやすい」(13.2%)が挙げられた。以下に各内容の代表的な記述を挙げる。また、本稿では学生の自由記述のうち内容に該当する部分のみを抽出している。学生の記述については誤記があっても訂正せず、そのまま記載する(以下同様)。

「移動しなくても授業が受けられること」

#### 【学生の記述】

- ・「オンライン授業のメリットは、学校に行くまでの時間を有効活用できること、機器があればどこでもつながることができること」
- ・「オンライン授業のメリットは学校に行く必要が無いことで、遅刻もしにくいということだ。

家で受けるため、登校する必要はないし、授業の開始時間にパソコンを起動するだけで遅刻することはないのだ。」

- ・「私は片淵キャンパスに住んでおり、対面授業の場合、朝早くから路面電車を利用して行かなければならなかったため、オンラインになって交通費が節約できた。」
- ・「1点目は通学時間の短縮だ。朝の交通渋滞で1時間以上前に家を出なければならないが、オンラインだとその必要がなくなり、時間の余裕もできる。」

学生は、大学に来なくても自宅等好きな場所で授業に参加できるため、通学にかかる時間や費用、手間等が削減できることを一番のメリットとして考えている。リアルタイム型のオンライン授業の場合は自宅で受講する場合は授業の直前までリラックスして自分の好きなことをすることができ、時間になればパソコンの電源を入れてZOOMミーティングに入室しさえすればよいし、オンデマンド型の場合は自分の好きな時間に好きな場所で動画を見ればよい。オンライン授業では、時間と空間に制約されないで授業が受けられることを一番のメリットとして感じたことが学生の記述から見ることができる。

「自分の好きな時間、ペースで授業を受講できること」

#### 【学生の記述】

- ・「メリットとしては、リアルタイム授業以外、自分の好きな時間で学べるということである。また、オンデマンド授業では、先生の言葉を聞き逃した場合、戻ってもう一度聞くことができるため、非常にメモが取りやすかった。」
- ・「オンライン上のメリットはオンデマンドであったら自分の都合が良い時間に受けることができ自分のペースで進められるということ」
- ・「動画や資料を見て勉強する科目では、個人のペ

ースで学習することができる。」

- ・「オンデマンド形式の授業では、自分の時間があるときに自由に勉強することができ、効率的に時間を使う手助けとなった。」

これらの回答はオンデマンド型のオンライン授業について言及したものである。リアルタイム型と比べると、オンデマンド型のオンライン授業では、不明な点が出た際には動画や資料を自分のペースで繰り返し見返しながら学べることで、学生にとってはメリットとして感じられたことがわかる。

「リラックスした状態で授業が受けられる」

【学生の記述】

- ・「ゆったりとした気持ちで臨むことができる。唐突に気分が悪くなったりトイレに行きたくなった時などに席を外しやすい。」
- ・「対面授業だと体調が悪い場合集中して受けることが難しいが、オンラインだと楽な姿勢をとることや薬の服用も気軽にできる。」

これは最初の「移動しなくても授業が受けられる」ことに関連している。オンライン授業では家で受講する学生が多数派であるためか、リラックスできる環境で受講していることがわかる。場合によっては、対面授業の場合ならば欠席せざるを得ない場合でも、自宅ならば出席できると考える学生もいることがわかる。

一方でこの「リラックスした状態で授業が受けられる」ことは、学生にとってのオンライン授業のデメリットにもつながっている。これに関しては後述する。

「教員に質問しやすい」

【学生の記述】

- ・「リアルタイムの授業でもチャットを用いることで、対面では言いづらかった直接の質問などを気軽にできるということが挙げられる。」

- ・「オンライン授業のメリットは（中略）プライベートチャットを通して先生にリアルタイムで質問をすることでその場で疑問を解決できる可能性があることだ。」

「教員に質問がしやすい」ことについては、ZOOM等で設けられているチャット機能の中にZOOMミーティングのホスト（この場合は教員）のみに向けて発信できる機能があることが反映している。通常、（特に日本の場合は）講義中に学生が自発的に挙手をして直接の質問を受けることはまれである。今回、筆者はリアルタイム型のオンライン授業でZOOMを用いたが、講義内容を解説する中でも学生からホストのみ宛てで連絡や質問、指摘を受けることが毎回何度かあった。その点では、講義内容を解説している最中の学生とのコミュニケーションは通常の対面授業よりもオンライン授業の方が増えた印象がある。

### 3.2 オンライン授業のデメリット

次に、オンライン授業のデメリットについて述べる。学生から出た上位の意見としては、「授業に集中しにくいこと」(34.2%)、「オンライン環境への不安」(26.3%)、「人との交流が少ない」(18.4%)、「授業への意欲が低下すること」(13.2%)、「課題が多いこと」(13.2%)が挙げられた。

「授業に集中しにくいこと」

【学生の記述】

- ・「対面授業に比べて、ズームなどを使ったオンライン授業は資料を見つつ、教授の言葉が聞こえてくるだけの仕様になることが多く、通常講義よりも集中しづらいと感じた。」
- ・「デメリットは、その点気が緩みすぎてしまうという点である、自分が見られているという実感が湧かないので姿勢を崩しすぎたり集中力が途切れてしまうことがある。」
- ・「集中しにくいのはオンライン授業のデメリットでもある。リアルタイムの授業では集中できるが、オンデマンド授業で90分も続く一方的

に話される長い動画をずっと座ってみることはできない。」

学生の記述内容を見ると、リアルタイム型の場合は、オンライン環境下で自分が見られている実感が持たず、更に自宅というリラックスした環境で受講することで授業への集中力が欠如しがちになることが示されている。また、オンデマンド型の場合は、長時間の動画を見続ける苦痛感に関する記述が複数見受けられた。大学からは、「オンデマンド型授業では1回15～20分程度のものを3～4本用意し、途中や終了後に課題や小テストを実施する。」という指示が出ている<sup>6)</sup>にもかかわらず、実際は90分の授業時間を一つの動画として学生に視聴させるケースも存在していることがわかる。

「オンライン環境への不安」

【学生の記述】

- ・「提出物等もすべてデータで管理され、さらに先生とのコミュニケーションもうまれないため、きちんと届いているのか、自分が見逃していないかなど、不安が大きい。Wi-Fiなど、環境によって受けにくい・受けられない人がいること。」
- ・「デメリットはインターネットの環境によって不具合が生じたり、スムーズに授業を受けることができなかつたりすることだ。」
- ・「Wi-Fi 環境下でないと授業を受けられないし、回線が悪くて途中で切れたり、つながらなかつたりしたときに焦る」

オンライン環境では、ネット回線の状況が悪いと音声途切れたり、レポート提出等も学習支援システム上のデータ提出のみで行わなくてはならず、教室やレポートBOXにレポートを提出した時のような体感を得られない。そのことに不安や焦りを感じている学生がいる様子が見受けられた。また、家庭によって、もしくは大学の解放教室においても通信の接続状況が悪い場合があり、その際に困惑する学生も多かったようである。

「人との交流が少ない」

【学生の記述】

- ・「学校に出向かないことで人とのコミュニケーションが減る点」
- ・「授業後に生徒同士で話したりして仲を深めることができないところ。」
- ・「対面と比べて隣にいる友達にちらっとわからないことを聴くことができないこと」
- ・「デメリットは友達と会えない点である。」

人との交流を少なくすることがまさにコロナ禍においてオンライン授業を実施した主目的なのであるが、それは学生の学習状況にも一定の影響を及ぼしていることがわかる。

対面授業の場合は友人と一緒に受講することができるし、グループワークがある場合は、同じグループの学生と授業後に交流や関係を深められる可能性があるが、オンライン授業でZOOMのブレイクアウトセッション機能等、ランダムに学生が配置されるグループ機能を用いる場合は一時的なグループが構築されても授業後にその人間関係を維持することはできない。オンライン授業の実施によって人とのコミュニケーションが減らされたことで学習が個別化されている様相が見受けられる。

「授業への意欲が低下すること」

【学生の記述】

- ・「オンライン授業（特にリアルタイム）になると「学校に行っている」という感覚が薄れ、勉強へのモチベーションが低下した。というのも、授業資料を見て課題を終わらせる、という単調な動きしかしない授業も多くあり、その中で授業に対する刺激がなくなったためだと考える。」
- ・「家で受けられるという環境に慣れてしまい、授業に対する意識や集中力が欠けてしまう。」
- ・「デメリットは、一日中家の中にいることもありモチベーションを保つことが難しい点」

本項目はオンライン授業のメリットである「リラックスした状態で授業が受けられる」ことと、デメリット1位の「授業に集中しにくいこと」とも深く関連している。

自宅で授業を受講する場合は、授業を受ける時間とプライベートの区切りを明確に分けることが困難になる。自室だと周囲には授業への集中を逸らす物が多数存在する。更に、オンライン授業で動画や授業資料を見て課題をするという授業プロセスがプライベート空間の中で繰り返し行われる中で、学習活動はどうしても単調化されてしまう。こうしたプロセスによって学習に対する意欲を失う学生も一定数存在することがわかる。大学での授業では教室という空間と授業時間という時間の区切りがあることによって、学生の学習意欲を高める作用があることが示唆されている。

「課題が多いこと」

#### 【学生の記述】

- ・「成績をつけるために仕方のないことだということは重々承知だが、ほぼすべてのオンライン授業の課題の量が対面の時に比べてはるかに多く、睡眠時間などを削らなければならないときが多々あった。」
- ・「オンライン授業は、習熟度の低下を防ぐためか、普段よりも課題を課せられているように感じる。」
- ・「対面の時に比べて課題の量がすごく多くなる。」

対面授業では同じ教室空間に教員と学生が共に存在し、出欠を確認すれば学生が受講しているか否かは把握できる。一方、オンライン授業では、特にオンデマンド型や資料提示型で授業を行う場合は、学生が出欠の代わりに実際に学習をしているかどうかを確認する手段が必要となる。そのため、課題の量が通常よりも顕著に増え、学生に大きな負担感を与えていることがわかる。

### 3.3 対面授業のメリット

対面授業のメリットとして学生から挙げられた

上位の意見は、「アクティブラーニングがしやすい」(31.6%)、「コミュニケーションがとりやすい」(26.3%)、「集中しやすい」(10.5%)、「であった。

「アクティブラーニングがしやすい」

#### 【学生の記述】

- ・「対面授業の方が周りに人がたくさんいるので、グループワークにしても盛り上がりやすかったり雰囲気はとても授業という感じがあったりとよかった。」
- ・「対面授業のメリットとして、グループワークなどの話し合いが活発に進むことや、授業向かう意欲の上昇などがある。」
- ・「グループワークは対面の方が実際に五感全てを使ってコミュニケーションするためやりやすかった。」
- ・「対面授業のメリットとして、授業の内容の理解度が高いこととグループワークや発言をしやすいうことが挙げられる。」

対面授業のメリットとして学生が一番に挙げたのがアクティブラーニングのやりやすさについてであった。対象科目ではグループワークを多用していたためか、記述の大半がグループワークに関するものであった。五感を使って教室空間で共にコミュニケーションをとることで議論が活発に進むと感じている学生が多かった。つまりは、オンライン授業の場合はグループワークをするのが対面授業に比べて難しいと感じていた学生が多かったということである。これについては後述する。

「コミュニケーションがとりやすい」

#### 【学生の記述】

- ・「今年の授業を経験した上で感じた対面授業のメリットは、これまで小学校から高校まで受けてきたような授業の中で、今まで通り先生の直の声を聴きながら、顔を見ながら行うことで色々なコミュニケーションをしっかりとることができることであると思う。」

- ・「対面授業のメリットは、授業を受けていることを実感できるところ、わからないところがあった際に友人に聞くことができる。」
- ・「メリット…他人との意思疎通が図りやすい。コミュニケーションが取りやすい。」
- ・「対面授業のメリットとしては、相手の目を見て話が出来て、相槌などの反応もしやすいところだ。」

対面授業において学生は、五感を用いた教員・学生間、もしくは学生同士のコミュニケーションのしやすさにもメリットを見出している。対面授業では、授業中に教員と視線が合うこともあり、疑問点があれば授業終わり等に教員に直接質問したりすることができるなど、何らかのコミュニケーションをとることができる。オンライン授業を経験する中で、対面授業における五感を使ったコミュニケーションが学生にとっての学習効果として意識されていることがわかる。

「集中しやすい」

#### 【学生の記述】

- ・「対面の良い点は場としてかっちりしているので緊張感を感じながら集中して臨める。」
- ・「対面メリット：先生の話に集中しやすい」
- ・「対面授業では、程よく気を抜けて授業の中でも特に重要な点により集中できて良かったです。」

オンライン授業のデメリットの欄でも出てきた内容であるが、教育に特化された教室空間での授業が学生の集中力を高めていることが、学生自身にとっても学習上のメリットとして感じられていることが示された。

### 3.4 対面授業のデメリット

対面授業のデメリットとして学生から挙げられた上位の意見は、「時間や場所に縛られる」(31.6%)、「授業中に質問や意見が言いにくい」

(7.9%)、「お金がかかる」(5.3%)であった。

「時間や場所に縛られる」

#### 【学生の記述】

- ・「対面授業のデメリットは、授業を受けるまでに時間がかかること、席を選ぶのが大変なことなどがある。」
- ・「デメリットは、学校に行く手間があることだ。オンライン授業を行う前は全くこのようなことを思わなかったが、オンラインに比べ、面倒くさい点である。」
- ・「デメリットは学校に行く準備をする時間や自由な時間が限られることが挙げられる。」
- ・「デメリットは、コロナ禍のなかでの感染リスクの上昇、学校までの移動時間がかかったり、めんどくさいといった心情が出てくるところだと思う。」

オンライン授業が実施されたことで学生が改めて気づいたのは、対面授業では大学に行き、授業を受けるまでの準備等、時間や手間が何かとかかるという点である。学生によってはこれを面倒くさいと感じる者もいた。

「授業中に質問や意見が言いにくい」

#### 【学生の記述】

- ・「対面のデメリットとしては、大人数の授業では授業中になかなか直接先生に質問をしたり、意見を言ったりするのが難しいということがあげられると思う。」
- ・「デメリットは個人の意見が述べにくいこと(恥ずかしさ)」

これはオンライン授業のメリットで出た「教員に質問がしやすい」の逆からの視点であるが、やはり対面授業で、特に大人数での授業においては自発的に質問や意見をすることが学生にとっては抵抗感が大きいということが示されている。

「お金がかかる」

【学生の記述】

- ・「家から大学までの交通費と時間がかかる。」
- ・「デメリットは私の場合交通費がかかるという点である。」

オンライン授業だと自宅で受講することができ、交通費がかからないということも学生にとってのメリットとして挙げられた。

4. オンライン授業と対面授業におけるアクティブラーニング（AL）のメリットとデメリット

次に、オンライン授業と対面授業におけるアクティブラーニングのメリットとデメリットについて述べていく。今回の学生の記述を見る限り、彼らが経験しているアクティブラーニングとしてはグループワークの形式をとるものが多く、反転授業などの取り組み例は見られなかった。

4.1 オンライン授業 AL のメリット

オンライン授業におけるアクティブラーニングのメリットとして多く挙げられた意見としては、「オンライン授業の方が話しやすい」（15.8%）、「情報共有がしやすい」（15.8%）、「多様な学生と関わることができること」（10.5%）がある。次に、各項目について学生の記述を示す。

「オンライン授業の方が話しやすい」

【学生の記述】

- ・「私自身は人見知りで人前で話すことが苦手なので、オンラインの方が話しやすかったです。」
- ・「グループワークに関しては、オンラインのほうが話しやすいことが多く、話し合いに積極的に取り組む点としては、オンラインのほうがやりやすいと感じた。」
- ・「（メリットの）二つ目はブレイクアウトルームは対面のときと異なり、周りの雑音が入ってこないなので音声がかき消えやすいところである。」

前述した対面授業のメリットでは、「（対面授業の方が）コミュニケーションがとりやすい」旨について回答した学生が 26.3%いるのに対し、逆にオンライン授業の方が話しやすいと感じる学生も一定数いることがわかった。オンライン授業の場合は、顔を出さずに音声のみでも話し合いをすることが可能であり、人前で話すのが苦手な学生にとっては、このことがオンライン授業でアクティブラーニングをすることのメリットとして感じられている様子が見える。

「情報共有がしやすい」

【学生の記述】

- ・「グループワークのやりやすかった点は、画面共有ができるのでグループでパワーポイントなどを作成するのが比較的行きやすかった。」
- ・「グループワークのやりやすかった点は、共有した意見などをチャットにメモしておくことでより内容を深めることができたところ」
- ・「資料や、共有したいものがグループメンバーにシェアしやすい点もオンラインのほうがやりやすい。」

グループワーク中に ZOOM 等で画面共有機能を用いると、書記担当の学生が記す内容を全員でテキストとして画面で見ながら同時に議論を進め、提出資料を作成することもできる。対面授業の場合は、書記担当や資料作成者のパソコンを他の学生が覗き込むか、一定の段階に達してから作成された資料を一緒に見ることで情報共有がなされるが、オンライン授業の場合は議論と情報共有が同時進行で行える。このことにメリットを見出した学生が一定数みられた。

「多様な学生と関わることができること」

【学生の記述】

- ・「グループワークは、オンラインだと対面であれば関わらないであろう人と接することができる点が様々な視点を取り入れることができ魅力的だと思った。」

- ・「zoom などを利用することにより、本来は別の時間や教室で同じ授業を受けている他学部の人などとも意見を交換する機会を作ることができる。」

対面授業の場合は、学生は友人と一緒に着席することが多く、メンバー指定がない形でグループワークが実施される場合は座席が近い友人同士で話し合うことが必然的に多くなる。一方、ZOOM等で多用されるブレイクアウトセッション機能では、ランダムに学生が配置されるため、対面ならば話すことがないだろう多様な学生と同じグループで話す機会が増える。これは、学生が話し合いを行ううえで、多様な視点を得ることにつながっているようであり、学生にとっても一つのメリットとして捉えられていることがわかる。

#### 4.2 オンライン授業 AL のデメリット

オンライン授業におけるアクティブラーニングのメリットとして多く挙げられた意見としては、「コミュニケーションがとりにくいこと」(28.9%)、「フリーライダーが出ること」(18.4%)がある。

「コミュニケーションがとりにくいこと」

##### 【学生の記述】

- ・「オンラインだと自分の頭が回らず言いたいことを言葉にできないし伝わらない。コミュニケーションの取りやすさは対面に比べれば劣ると思う。」
- ・「オンライン授業でグループワークをすると、自分自身が本当に静かな環境の中で zoom をしているので、話し合いの中でも孤独を感じるが多々あり、シーンと静まり返ったときに誰が声を発すればいいのかと難しい空気になるのが改善したいなと感じた。」
- ・「オンラインだと変に緊張してしまうし、顔を出していないと反応が分からないのでとてもやりづらい。」

繰り返し出てくるコミュニケーションに関する

内容がここでも出た。対面授業とオンライン授業では、オンライン授業の方が話しにくいと感じる学生の方が多いようである。特にグループワークでは沈黙が起こった場合に誰が議論の口火を切るのか困る場合が頻発するようで、対面授業ならばグループメンバーの表情や、場の雰囲気を読みながら対応することができる学生も、オンライン授業では声を発しにくく、結果として沈黙が続いてしまう場合も少なくないようである。

「フリーライダーが出ること」

##### 【学生の記述】

- ・「オンラインでミュートしていて全く話に入ってきてくれない人がいたりするので、話しにくい。全員がずっとミュートを解除し、カメラオンなら良いと思うが、そのような指示があっても、話さない人は話さない。それなのにグループワークでグループの他のメンバーが頑張れば、全く話し合いに参加しなかった人も点数が同じになるのはおかしいと思う。」
- ・「他の授業ではブレイクアウトルームの時全く話し合いに参加していない人もいて、すごく苦勞したこともあった。」
- ・「オンライン授業であることを利用してカメラ・マイクをオフにし、グループでのプレゼンテーション準備をすべて他の人に任せた人がいたので、それはやりにくかった。」
- ・「オンラインだからこそ参加する人の温度差がすごいことがあった。」

フリーライダーとは、グループや組織での共同作業に全く貢献せず、他のメンバーが出した成果の恩恵や報酬のみを享受する、いわゆる「ただ乗り」をする人間のことである。オンライン授業におけるグループワークでは、メンバーはあくまで授業時の一時的なものに過ぎず、次に顔を合わせる機会はまずないであろうことや、教員が自分の学習活動を絶えず監視できる状況にないことを学生自身も理解しているため、学習意欲がない学生

は、グループワークでも積極的に関与しないままになることがある。

こうしたフリーライダーの発生を避けるためには、グループ内で学生にグループワーク等への貢献度について相互評価をさせるなど、教員側で評価方法について工夫をすることが必要となる。オンライン状況下で全ての学生の学習活動が一覧的に把握できない中でも、学生自身が自主的に学習活動を活発かつ円滑に進めるための方策を教員が立てないと、学生は学習活動を怠けてしまう場合が少なくないことがわかる。

#### 4.3 対面授業におけるALのメリット

対面授業におけるアクティブラーニングのメリットとして多く意見が挙がったのは「対面授業の方が話しやすい」(34.2%)、「積極的に取り組みやすい」(10.5%)、「グループメンバーに親しみをもちやすい」(5.3%)という項目が挙がり、やはりコミュニケーションに関する内容が多かった。

「対面授業の方が話しやすい」

##### 【学生の記述】

- ・「時間がたつにつれ、慣れてきて一部改善はあったが、私は対面で相手の表情や雰囲気をしっかり感じながらのほうが安心して取り組めると思った。」
- ・「グループワークについても、対面の方が取り組みやすかった。私にとっては対面で話すことの方が円滑に意見を述べやすく議論もはかどるため、画面越しとは違った発想ができ、授業内容を深く理解できるからである。」
- ・「対面授業では相手の表情が見れることに加え、オンラインでの場合と違い、音声の時差やノイズなどを気にせず、会話がスムーズに行えることが挙げられる。」
- ・「対面講義の方がグループワークはしやすかったです。メモの共有や顔を合わせていたので相手の様子をうかがいながら話すこともできより建設的な話し合いができたと思います。」

対面授業におけるアクティブラーニングではオンライン授業と違い、目の前に相手の存在がそのままある中で議論や共同作業を行えることが一定の安心感や話しやすさ、意欲向上につながっているようである。オンライン授業では同時に音声を発することが困難なため、相手との間を考えたりする中で逆に話しにくくなってしまう場合が少なくないことが前述されたが、対面授業ではそのようなことも起こらず、五感を使って相手の表情や態度、雰囲気を見たり体感しながら対応することができる。これが対面授業でのアクティブラーニングの最大のメリットであることが学生の意見に示されている。

「積極的に取り組みやすい」

##### 【学生の記述】

- ・「対面だと互いの顔や表情、その場の雰囲気があるためみんな積極的に取り組もうとするが、オンライン授業だとやる気がない人が発言を全くしないこともあったためオンライン授業ではグループワークは対面授業の方がやりやすい。」
- ・「グループワークへの取り組み方に関しては、対面授業の方がオンライン授業より積極的に参加することができていたと感じる。」

この項目は前の「対面授業の方が話しやすい」とも近いが、授業への積極性がより前面に出ている内容として、分けてカウントした。これはオンライン授業のデメリットの欄で前述した「フリーライダーが出やすい」とも関連している。対面授業の場合は、目の前にグループのメンバーが実在しているため、それを無視して共同作業に貢献しないままにいることは難しい。また、同じ空間で一緒に話すことで場の雰囲気や空気感のようなものが形成されるため、議論も促進されやすい様子が見受けられた。

「グループメンバーに親しみをもちやすい」

##### 【学生の記述】

- ・「対面授業では授業前後や休み時間に雑談することで仲を深めてワークも円滑になったりして

いたので、オンラインでは盛り上がり欠けるように感じた。」

- ・「対面だと、あ、あの人見たことあるなという感じで親しみを持ちやすいので話しやすいが、対面だとそれがない。」

これらの項目を見ると、先に出たオンライン授業でのグループワークにおけるフリーライダー問題は、おそらく学生がグループメンバーの実在性を感じられないことによるものであることが示唆されている。

対面授業で同じ教室にいれば、相手の存在を感じやすく、授業前後や休み時間でも雑談をして関係性を深めることができる。オンライン授業だと相手の存在はパソコンの画面上に存在する一情報としてしか感じられない場合があり、その存在を軽視しやすいのかもしれない。

#### 4.4 対面授業ALのデメリット

対面授業におけるアクティブラーニングのデメリットを挙げたのは「全員の表情がオンラインと比べて見えにくいこと」(2.6%)を挙げた一名のみであった。

##### 【学生の記述】

- ・「オンラインでのグループワークのメリットは、一人一人に顔がじっくり見れるという点である。対面だと、どうしても顔の横顔になってしまうので表情がつかみにくい。」

この学生がコミュニケーションをとるうえで重視しているのは、正面から見た顔の表情であることがわかる。その点では、この学生にとっては対面授業よりもオンライン授業の方がコミュニケーションがとりやすかったようである。

近年では、学生が持つ多様性に配慮した授業を実施することが益々求められるようになってきている。そのため、教員としては、各学生が授業中に何を重視してコミュニケーションを行うかということにある程度留意することも場合に依じて必要になってくるだろう。

#### 5. 授業の定着度について

次に、授業の定着度は対面授業とオンライン授業のどちらが高いと思うかを学生に尋ねた。彼らの意見について以下に記す。

##### 5.1 対面授業の方が定着率が高い

学生の回答を見ると、「対面授業の方が定着率が高い」と答えた学生が63.2%にのぼった。挙げられた意見内容としては、多い方から「集中しやすいため」(39.5%)、「教室や授業の空気感がいい」(10.5%)、「語学や実践的科目は対面授業の方が向いている」(7.9%)がある。次に、各項目の内容について記す。

「集中しやすいため」

##### 【学生の記述】

- ・「授業の定着度に関しては、対面の方が定着していると感じた。オンライン授業だったら、眠くなったり気が散ったりして集中力が欠けることが多く、対面授業の方が集中して真面目に授業に参加できたと感じた。」
- ・「授業内容の定着度は、圧倒的に対面の方がいいと感じる。オンラインだと自分の空間の中で誘惑があったり、中にはオンデマンド形式の授業ではほとんど話を聞かなかったこともある。」
- ・「オンラインの方が家で受けるため、他のものに興味が行ってしまい、集中できないという点から定着度が悪く、対面の方が定着度はいいのではないかと思う。」

「教室や授業の空気感がいい」

##### 【学生の記述】

- ・「対面の方が注意を遮るものがなく、授業や教室の空気感にのみこまれるので、集中することができ、わからないところもすぐに先生や友達に確認することができるので、理解もしやすいと思う。」
- ・「オンライン授業は、どうしても自宅で受けるので、話を聞いていてもどこかリラックスして聞

いているが、対面では教室にいたので、授業を受ける気分が出来上がって、対面の方が集中できると個人的に感じた。」

「集中しやすいため」の内容に示されるように、オンライン授業では、学生は自宅で受講する機会が多く、リラックスできる自室で受講することは、集中力や意欲の欠如につながりやすいため、教室空間で対面授業をする方が集中しやすいと感じている学生が多いことがわかる。また、上記に示されるように「教室や授業の空気感がいい」は「集中しやすい」と類似した内容であるが、ここでは授業や教室空間について明示的に言及したものを分けてカウントした。ここにもやはり、教室空間が学生の意欲や集中力の向上を促進していることが示されている。

「語学や実践的科目は対面が向いている」

#### 【学生の記述】

- ・「授業内容の定着度は、正直差はないと思うが、私の体感では対面授業の方が定着はしやすいのかなと思う。特に言語の授業では対面授業の方が定着度が高かったと感じる。それは実際に先生の発音を聞いたり、会話の練習をしたりする機会が設けられるからであると考え。」
- ・「授業内容の定着度は(1)で述べたように、オンライン授業よりも対面授業の方が定着度は高いと感じる。特に言語の授業は定着度に大きく差があると感じた。」
- ・「定着度は実践的教科は対面の方が良い」

語学や実習など、何らかの実践を伴う科目には対面授業の方が適していると指摘した学生が数名いた。確かに、現状ではオンラインの場合だと音質がさほど良くないこともあり、語学系科目における発音や会話などのスキルを伸ばすにはやはり対面授業の方が適していると考えられる学生がいることがわかる。

## 5.2 どちらも変わらない

次に多かった記述は「どちらも変わらない」(21.1%)であった。意見としては、「授業内容の定着度は学生や教員次第である」(7.9%)と感じる者が一番多かった。

「授業内容の定着度は学生や教員次第である」

#### 【学生の記述】

- ・「対面でもオンラインでも授業内容の定着度はあまり変わらない気がする。定着するかどうかはその授業や教師・学生次第だと思う。」
- ・「授業内容の定着度は変わらないと考える。オンラインでも学ぶ意志さえあれば学ぶことが出来るので定着度はそこまで変わらないと考える。」
- ・「定着度は、ある場合を除けばどちらも本人のやる気によると感じた。」

その他の意見としては、「リアルタイムであれば(対面もオンラインも)変わらない」、「オンライン授業でも課題や感想があったため定着度は同じ位だった」、「実践的科目以外は変わらない」、「個人的な意見としては問題なく学べると思う」(各2.6%)といった回答が見られた。

これらの回答からは、多くの学生にとって集中力が欠けやすいオンライン授業であっても、教員や学生自身の努力次第で変わらない定着度を確保できると感じる学生も一定数いることがわかる。

## 5.3 オンライン授業の方が定着度が高い

最後に、「オンライン授業の方が定着度が高い」と回答したのは全体の10.5%で最も低い回答となった。

この中で最も多かったのは「毎回課題が出るオンライン授業は定着度が高い」(7.9%)であり、その次が「授業の進度がわかりやすい」(2.6%)であった。以下に、学生の記述を示す。

「毎週課題が出るオンライン授業は定着度が高い」

#### 【学生の記述】

- ・「定着度については、出席として毎週課題を提出

する者に関しては、理解度を図ることができ良かった。」

- ・「課題の量が増えたのでその授業に向き合う時間は増加したので定着力は少し上がったのかもしれない。」
- ・「オンライン授業のほうが、その日のレポートがあったりして、そのタイプの授業は対面授業よりも授業内容が定着していたと思う。」

「授業の進度がわかりやすい」

【学生の記述】

- ・「オンラインのほうが、教師が画面共有し授業を進めるため、今やっている内容の進度がわかりやすい点で、若干オンラインのほうが定着しやすいのではないだろうか。」

オンライン授業でも毎回課題が出る授業については定着度が高いと感じている学生が一定数見られるが、これは裏を返せば対面授業の場合には、課題もしくは授業外学習の機会を毎週設けていない講義科目がまだ存在している可能性があることが示唆されている。

全授業科目がオンライン形式で実施されることになったことによって、おそらくは実習科目等でも課題を出さざるを得ない状況が生まれているのかもしれないが、学生の記述を詳しく見ていくと、教員からの一方的な講義内容の伝達のみで授業内容が構成されている場合が一定数存在するようである。それは特にオンデマンド形式及び資料提示形式の授業の場合に顕著に見られるようである。

## 6. オンライン授業の課題

最後の質問項目として、学生に「今後のオンライン授業の課題は何か」を聞いたところ、上位の意見として「家庭や大学における通信環境への配慮の改善」(34.2%)、「グループワークの促進方を立てること」(26.3%)、「教員と学生のつながりを増やすこと」(15.8%)、「集中力や緊張感をどう保持させるか」(15.8%)、「一方的な伝達型講義を改善すること」(7.9%)が挙げられた。

## 6.1 家庭や大学における通信環境への配慮の改善【学生の記述】

- ・「オンライン授業の課題は、電波が悪いと授業にならない点だと思います。学校が解放教室として用意してくれている教室でも、多くの生徒がいるためアクセスが集中し、WiFiのつながりが悪かったり、電波が悪いのに解放教室に行かずに授業を受ける人がいたり、改善した方が良い点があると思いました。」
- ・「オンライン授業において、カメラ及び音声の不具合などの接続回線上的の問題に関してはどうしても完全に解決することは難しいとかもしれない。」
- ・「システムやインターネットの不具合に対しての対処が課題だといえる。講義の中には、生徒が回避不可能なインターネットの不具合にあったとしてもそれを認めないことがあった。平等性を理由にしていたが、それこそ不平等だと思ったからだ。」

Wi-Fiなどの通信環境は、学生の状況によってもかなり異なるし、大学においてでも接続状況が悪い場合さえある。一定数の学生が、通信状況の悪さによって授業への参加度が低いとみなされるなどの不平等な状況に恐れを抱いている様子が見受けられた<sup>2)</sup>。

学生の話によると、リアルタイム形式の授業によっては ZOOM 等でログアウトした状態や姿が消えた状態を即ち授業をさぼっている状態と見なしてカウントする教員が一定数存在しているという<sup>3)</sup>。

学生が指摘する通り、通信環境という学生自身にコントロールできない状況のためにログアウトしてしまうことや、トイレに行くことなどで画面上から消えたことだけを理由に、学生が授業を怠けていると見なして減点する行為は極めて不平等な扱いといえよう。問題は学生が画面上に存在しているか、オンライン状況になっているかということよりも、授業内容をどの程度理解しているかなど、学習の達成状況によって授業への参加度が

測られるべきである。

## 6.2 グループワークの促進方策を立てること

### 【学生の記述】

- ・「グループワークだけがオンライン授業のデメリットだと思うので、スムーズに話しやすい雰囲気を作れるような環境に出来ることが今後の課題だと感じた。」
- ・「オンライン講義の課題としては、グループワークの盛り上げをもっと考えるべきなのではないかと考えました。具体的な方策としては、画面共有によるメモの共有、スライドづくりではOneDrive、PowerPoint を使って全員が編集作業に参加できるようにすることを事前に伝えておく」
- ・「オンラインの今後の課題は、対面で話すように相手とコミュニケーションをとれるようになるかだと考えた。」
- ・「グループワークや発言のしやすさが挙げられるが、グループワークに積極的に取り組むかどうかはその人次第であることを踏まえると、改善は難しいと感じる。」

対面授業に比べ、オンライン授業ではグループワーク時における学生同士の話しにくさや議論が盛り上がりにくい点に不満を持っている学生が多い。そのため、課題として、オンライン上での議論をいかに促進するかについての方策を望む者が多く見られた。

考える方策としては、(1)グループワーク時に学生同士の相互評価を導入してフリーライダーが出ないように工夫すること、(2)議論前のアイスブレイク（グループ内でのコミュニケーションを深めるためのゲームや談話等）の時間を増やし、グループメンバーへの親しみを深める工夫をすること、(3)グループメンバーをランダムに設定せず、教員が固定メンバーを指定した状態で数回授業を繰り返すことで、グループメンバーの実在性を学生に意識させ、グループ内の人間関係が徐々に深

まっていくことを目指すこと、(4)画面共有の機能を活用させ、グループ内での効率的な記録や資料作成を促進すること等が考えられる。

## 6.3 教員と学生のつながりを増やすこと

### 【学生の記述】

- ・「対面の授業より、学生への問いかけを増やすなど、もっと対面に近づける工夫が必要だと感じた。」
- ・「教員への発言や質問のしやすさは、個人チャットなどで発言や質問を受け付ける時間を設けるなどの改善が必要だと思う。」
- ・「教員との距離感を縮める。そのためにも、オンデマンドのみの授業は、授業の理解度を深めるためにも積極的に、その回のワークのリフレクションを導入すべきだと考える。」

これらの記述内容からは、対面授業に比べ、オンライン授業では学生が教員との距離感をより遠いものを感じている様子が示されている。この課題への対策としては、学生が記すように、(1)教員から学生への質問や問いかけを増やし、学生に考えさせる機会を与えて受動的な授業にならないよう工夫すること、(2)リアルタイム型の授業の場合は、授業が一定程度進んだ段階か、もしくは最終段階でも学生から直接質問を受ける時間を設け、学生の授業に対する理解度を把握できるようにすること、(3)オンデマンド型の授業の場合でも、授業内容の理解度を測るため、授業のリフレクション（授業内容を振り返って概要をまとめる等）や課題を積極的に導入すること、(4)オンライン上でのオフィスアワーを設け、学生が教員とチャットや ZOOM 等で質問できる時間を積極的に作る等の方策が考えられる。

## 6.4 集中力や緊張感をどう保持させるか

### 【学生の記述】

- ・「怠けず集中できる方法の推進」
- ・「どうしたら生徒が対面と同じような緊張感をも

って授業に臨めるかということ。」

・「集中力を下げないための対策」

これらの記述内容には、学生自身がオンライン授業に集中できずに困っている様子が把握できる。これに対する方策としては、(1)リアルタイム型では学習支援システム等を活用し、学生自身が主体的に回答する個人ワークやグループワーク等の機会を数多く設け、授業への集中力を途切れさせないようにすることや、(2)オンデマンド型の場合は、長時間の受動的な動画視聴を辛いと感じている学生が多いため、大学の指定にある通り、動画による講義内容の説明時間を数分～20分程度に設定し、それと理解度を測るために取り組める主体的ワークを学習支援システム上に組み合わせることを複数回繰り返す形で授業を構成すること<sup>7)</sup>や、(3)学生から提出されたワーク内容を相互評価させることによって他者の多様な意見を参照させ、その内容について吟味することなどが考えられる<sup>4)</sup>。

## 6.5 一方的な伝達型講義を改善すること

### 【学生の記述】

- ・「先生が一方で気（一方的：筆者注）に話すような授業をオンラインでそのままやってしまうと、授業の質がさらに落ちてしまうこと。」
- ・「デメリットとして挙げられた、授業に対する意欲や積極性が欠けてしまうことや、音声を消していることから、教員による一方的な受動型授業になりがちであることなどに対し、授業の方針や内容も含め今後どのように改善していくかが、オンライン授業の今後の課題になるのではないかと考える。」

これらの記述に示されているのは、オンライン授業において学生が受動的な形で、即ち教員が講義形式で一方的に話し、学生はただ聞くだけという形式での授業を実施すると、学生の集中力が続かず、授業の理解度も下がってしまう可能性が高くなるという問題である。前述した通り、長時間

にわたる受動的な講義受講や動画視聴は学生にとって大きな負担となっており、集中力や学習意欲を保持し続けることは極めて困難である。

この課題に対する方策としては、ここまで挙げてきた複数の方策等を用い、オンライン授業においても学生の主体的な学習機会、つまりはアクティブラーニングを授業内で更に増やしていくことではないだろうか。

特にオンライン授業を実施する際には、教員側も学生が果たして本当に講義内容を聞いているのかを測りたいためか、対面授業に比べて課題を多く出していることが学生の記述には示されていた。しかし、本来はたとえ対面授業であっても毎週、授業外学習の機会を与え、学生の学習や理解の定着を授業内外の両方で促進することこそが大学教育に求められているいわゆる「単位の実質化」であろう。

全科目をオンライン授業で実施するようになったことで課題量が大幅に増え、学生に大きな負担感を与えている状況が起こったことは、言い換えれば授業外学習の時間を設けていない授業科目が未だ存在していることを示している。全ての講義・演習科目で毎週課題が出されているのならば、コロナ禍の影響とはいえ、学生が「大幅に」課題が増えたと嘆く現象は起こらないはずだからである。

実際に本学の学生が対面授業でどの程度授業外の学習時間を行っているかという点については、2016年8月に大学教育イノベーションセンター教学IR部門によってまとめられた1年生と3年生の学習状況についての報告書がある。この中には、授業に関連する1週間の授業外学習時間は、学生のうち3割が「3-5時間」、2.5割が「1-2時間」、1.5割ずつが「1時間未満」と「6-10時間」というデータが見られる<sup>8)</sup>。

ここに大学における単位制の原則を当てはめると、非常に奇妙な状況が常態化していることがわかる。単位制では講義科目は1単位45時間の学修で構成され、その内訳は15時間分が実際の授業時間、残り30時間分が予習・復習の授業外学習時間に充てられる。単位制における1時間は実際には45分で計算される。（つまり、大学の1時限90分は単位制では2時間とカウントされる。）単

位制の原則の下で1科目2単位を取得するためには1時限90分の授業時間に対し、180分の授業外学習の時間がなければならない。

しかし、本学における学生の授業外学習時間の実データをこれと照らし合わせると、学生の3割が1~1.5科目分、4割が1科目分さえも授業外学習を行っておらず、一番時間数が多い学生でも2~3科目分程度しか授業外学習をしていないことになってしまう。

つまり、コロナ禍前の学習状況は、本来の単位制からすると、授業外学習時間が圧倒的に不足している。そういう意味ではオンライン授業下で学生が課題が増えている現状の方が、本来の単位制が実質化された大学教育の在り方といえる。

今後は、CAP制度の履修単位上限を見直すことや、単位制度の実質化を図るため、今後、教員に対し授業外における小テストや課題など、学習状況を実質化する取り組みをどの程度実際に行っているのかについて検討していく必要があるだろう。

## 7. 考察とまとめ

これらの調査結果及び分析から示された結論としては、まず第一に、学生は対面授業において、大学という教育空間で五感を使ったコミュニケーションや対人関係の構築に学習活動上の大きな意義を見出しているということである。

その点、オンライン授業は学習の孤独化、個別化を進める傾向が高く、学生間の相互協力ができないことで学生は孤独感を感じやすくなる。また、教員側が設定する授業方法と、学生の学習意欲次第で、学生が怠けられる状況も生まれやすい。これをチェックするための本質的な方策が現行ではなかなか見当たらず、教員は表面的な出席状況や課題を増やすことでしか学生の学習状況を確認できていない様子が学生の記述内容からうかがえる。

現行のオンライン授業のやり方では授業方法や学生の学習意欲次第で、学生間の理解度や達成度に大きな格差が出てくる可能性が高い。そのため、学生間での学習格差を避けるためにも、更なるアクティブラーニングの導入や、学生の理解度を毎回の授業時にワークや課題等で常時確認し、オンライン授業においても均質的な学習活動を全ての

学生に提供することが重要になってくると考える。

第二に、コロナ禍におけるオンライン授業の一斉実施は、現行のCAP制の上限履修単位数が果たして適切なのか、言い換えれば、教員が学生に提供している授業内外の学習内容や時間が適切なかを再検討するための絶好の機会となっている点である。

今回、コロナ禍の影響ではほぼ全ての授業で課題が出るようになった状態に対し、学生は大きな負担感を感じていることがわかった。これを契機として、大学で提供されている講義・演習科目で対面授業時における授業内ワークや課題の有無等を全面的に再検討し、学生にとって各授業科目の教育内容が単位制の下、実質的に学ばれているのかどうかを確認する必要があるのではないだろうか。

第三に、大学教育におけるオンライン授業の成果を今後どのように有効活用していくかという点がある。

今回、日本中の大学で実施されたオンライン授業の中には、今後の大学教育に活かせる成果やメリットが少なからず存在するはずであり、それらをコロナ禍状況下での一時的な授業形式として終わらせてしまうのは非常に勿体ない。つまりは、今回、大学教員が経験したオンライン授業の経験や工夫を蓄積することが大学にとっても、また、大学教員にとってもメリットを生み出すのではないだろうか。

例えば、学生の記述の中には、オンデマンド型のオンライン授業ではわかりにくい内容も自分の理解度に応じて繰り返し見ることができ、理解度を深めるのに便利であったというようなオンライン授業のメリットが示されていた。これを活かし、オンデマンド形式のオンライン授業が適する授業内容については、積極的にオンデマンド動画を導入した反転授業を行うなど、ハイブリッド型の授業を展開していく方が、学生の理解度も高まり、多忙な大学教員にとってもより効率的な授業設計ができるだろう。

コロナ禍が収束した後、日本の大学におけるオンライン授業や大学教育はどのように発展していくのだろうか。今後の課題としたい。

### 注

1. 長崎大学における教養教育の全学モジュール科目は1つの特定テーマに対して異なる専門分野からなる3科目で構成されている。モジュール科目はクォーター制で実施され、1回の授業が2時間連続で設定される。
2. 本調査の対象科目で筆者が学生からプライベートチャットで連絡を受けた中で最も多かった内容は、「通信環境が悪かったため再ログインしました」「トイレに行っていたため、今戻りました」という画面上での表面的な出席状況に関する連絡であった。
3. これは、ZOOMで対象科目のオンライン授業中に実施したグループワークの間、各ブレイクアウトルームを訪問した中で複数の学生から聴取した内容である（日程不明）。
4. 授業中のワークや課題の回答に対する学生同士の相互評価は、インターネット上で受講できる無料の大学教育として世界中で広まっているMOOCs (Massive Open Online Courses) または海外のオンライン大学で用いられている教育方法を応用したものである。

### 参考文献

- 1) 長崎大学「新型コロナウイルス感染症に対応した令和2年度新入生オリエンテーション、授業等の実施について（通知）」令和2年3月10日。
- 2) 長崎大学「新型コロナウイルス感染症に対応した授業等の実施について（通知）」令和2年3月19日。
- 3) 長崎大学「令和2年度授業実施のあり方について（通知）」令和2年4月16日。
- 4) 長崎大学「令和2年度授業実施のあり方について（通知）【第12報】」令和2年8月5日。
- 5) 長崎大学「令和3年明けから1月17日までの授業等の準備について（通知）」令和2年12月2日。
- 6) 長崎大学「令和2年度授業実施のあり方について（通知）」令和2年4月16日。
- 7) 長崎大学「令和2年度授業実施のあり方について（通知）」令和2年4月16日。
- 8) 長崎大学大学教育イノベーションセンター教学

IR 部門『長崎大学教学 IR 報告書 No.2「1年生と3年生の学習状況—2013～2015 年度学部別基礎集計』』2016年8月、p.101.

- 9) 片瀬一男 (2017)「CAP 制は学生の履修行動をどのように変えたか：CAP 制導入の「意図せざる結果」、東北学院大学教育研究所報告書 17、pp.17-40.
- 10) 久保友美 (2017)「高等教育無償公開「オープンコースウェア」の現状と発展」龍谷政策学論集、vol.6、pp.91-98.
- 11) 中島ゆり (2017)「大学生の授業外学習時間の再検討」長崎大学大学教育イノベーションセンター紀要、第8号、pp.17-25.
- 12) 斎藤正武 (2016)「大学におけるオンライン講義の質の維持向上に関する研究」中央大学商学論纂、第57巻第5・6号、pp.515-548.
- 13) 重田勝介 (2015)「オープンエデュケーションとは—教育の「オープン化」と MOOC」、情報処理、vol.57、pp.74-77.